

三島町歴史文化基本構想

文化財総合的把握モデル事業
平成22年度中間報告会

①本構想が目指すところ

三島町歴史文化基本構想

三島町の文化財をその周辺環境も含めて総合的に
保存・継承・活用していくための理念と方策を示すもの。

本構想が目指すところ

地域とそこに暮らす人々を主人公として
歴史・文化を保存・継承・活用する
「三島スタイル」の構築



地域の誇りと絆の維持・再生



人々の暮らしの中での文化財の保存・継承・活用

歴史＝地域で暮らしてきた人々の証

- ・ 縄文遺跡（荒屋敷遺跡、小和瀬遺跡etc）
- ・ 中世の武家支配と人々の暮らし
- ・ 戦中戦前の開発（只見川電源開発、只見線

文化＝地域に暮らす人々の生き様

- ・ 豪雪地帯、河岸段丘などの自然条件
- ・ 農業、ものづくり、年中行事など、祖先より受継いできた「暮らし、いのり、生業」

②歴史文化基本構想の概要

第1章 歴史文化基本構想の目的

第2章 歴史文化基本構想の策定方針

第3章 三島町の文化財（三島町が守る文化財、保存・継承・活用していく意義）

第4章 文化財調査の方針（調査状況、今後の調査の関する基本方針）

第5章 三島町全体の概況

- ①「サイの神」を中心とした年中行事、②信仰、③ 河岸段丘と豪雪地帯、④荒屋敷遺跡、
⑤いにしへの街道と川の文化、⑥ 生業の変遷、⑦只見川電源開発

第6章 三島町の集落の概況

- ①宮下地区、②桑原地区、③大登地区、④川井地区、⑤桧原地区、⑥滝谷地区、
⑦大谷地区、⑧浅岐地区、⑨間方地区、⑩ 西方地区、⑪大石田地区、⑫名入地区、
⑬小山地区、⑭高清水地区、⑮滝原地区、⑯ 早戸地区

第7章 文化財の保存・活用の方針

- ①文化財保存・活用の担い手、②文化財を核とした学習と伝承の場づくりの方策
③文化財と周辺環境を一体的に捉えた空間づくり方策、④文化財を核とした情報発信の仕組みづくり
⑤文化財を核とした交流観光の仕組みづくり

第8章 集落の物語

集落地図と写真から記憶と想いを聞き取り、物語を抽出する。

モデル地区) 宮下地区、西方地区、早戸地区

③ 関連文化財群と保存活用区域の考え方

【保存・活用区域】

最小限の単位である「集落」を保存活用区域に設定する。

物語の抽出から区域を設定する

人々につながりのある「集落」を単位に記憶や思いを聞き取る

物語

地区の暮らしと文化を話し合う会

集落が目指す物語（例）

- 宮下地区・町並み景観保存を基本としたおもてなしの地域づくり
- 西方地区・自然と歴史を活かしたコミュニティ連携
- 早戸地区・秘湯・早戸温泉を守り続けるコミュニティ環境整備

全16集落に広めていく。

（集落ごとに異なる物語の抽出方法を検討）

【関連文化財群】

人々の暮らしに根ざした物語をベースに関連文化財群と捉える。

人々の暮らし

- ・年中行事、信仰
- ・農業、ものづくり
- ・住まい
- ・むかし語り
- ・地域とのつながり
- ・自然との共生

↓
人々の暮らしのあり方
三島スタイルの構築

暮らしに関わる文化財

- ・民俗行事
- ・民具、民俗技術
- ・社寺、民家
- ・民話
- ・年中行事
- ・景観

↓
人々の暮らしの中で
保存・継承・活用する

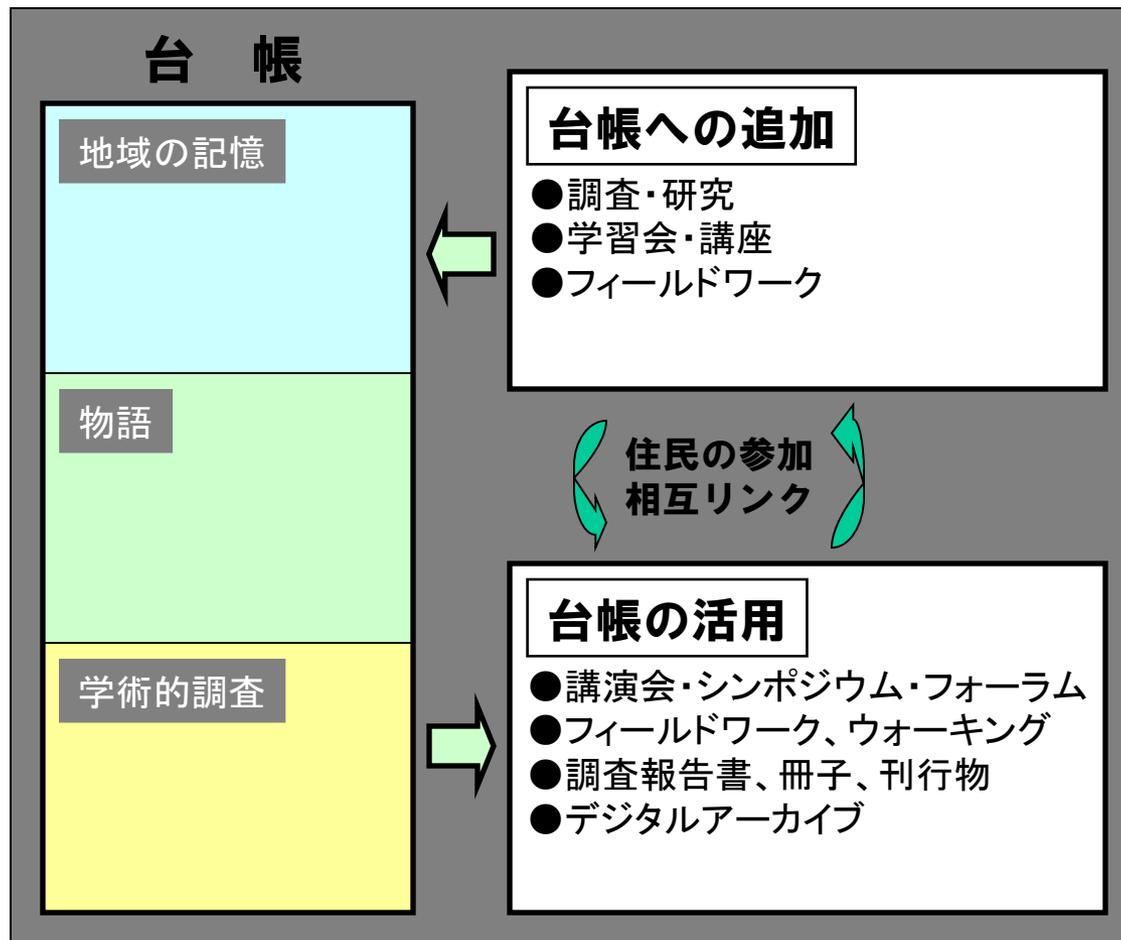
物語からつなぎ合わさる文化財

- 宮下地区・町並み(昭和16年大火による昭和初期の建築群)、ものづくり、清水、社寺
- 西方地区・宿場町並み(旧越後街道、塩の道)、社寺(西隆寺、鬼子母神、33観音)、虫送り
- 早戸地区・早戸温泉、神々の道(野仏、石祠、神社)、旧沼田街道、古民家群(築150年)

物語ごとに構成される関連文化財群

④物語づくりから始まる保存・活用計画

保存・活用の方針を受けて10年間の長期計画を作成する。



具体的展開としての4つのプロジェクト

- ①三島学**
 - ・三島学フォーラム
 - ・語り手、案内人
 - ・物語ルートの設定
- ②地域の記憶**
 - ・デジタルアーカイブ
 - ・地域の記憶収集、活用
- ③集落再生**
 - ・コミュニティ・センターを含めた集落の物語づくり
- ④山びこ再生**
 - ・文化発信拠点の再生